

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぴっころ		
○保護者評価実施期間	2026年1月26日	～	2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	11	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2026年1月26日	～	2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待さ	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能の良さを活かした継続的な支援ができる	児童発達支援から継続して利用している児童について、未就学期からの関わりをふまえ、個々の特性や成長過程を継続に把握している。同一の場所・職員との関わりが続くことで、安心感につながり、学校で頑張ってきた子供たちがリラックスして過ごせるよう配慮している。	学校での様子や疲れ具合について、保護者や学校との情報共有を通して把握し、放課後の過ごしにより適切に反映できるよう工夫する。また、利用児の様子(落ち着き・活動への参加状況等)を記録し、「心を整える時間」としてどのように機能しているかを振り返り、支援の見直しに活かす。
2	保護者からの相談に柔軟に対応できる	送迎時や日々の連絡を通じて保護者とのコミュニケーションをとり、子どもの様子や変化を共有している。学校での様子や家庭での状況にも目を向けながら、保護者が安心して相談できる関係づくりを意識し、その時々思いや状況に寄り添った対応を心がけている。	日々のやり取りに加え、こどもの様子や支援の意図がより伝わるよう、伝え方や共有内容について職員間で整理する。また、保護者同士が無理のない形で関われる機会についても検討し、安心感やつながりがどのように深まるかを振り返りながら、今後の取り組みに活かしていく。
3	芸術体験ができる	創作活動や音楽活動等を日常的に取り入れ、子どもの興味やペースに合わせて無理なく参加できるようにしている。その子なりの表現や感じ方を大切にしながら、安心して自分を出せる時間となるよう関わっている。	活動のねらいや子供の様子(参加の仕方や表現の変化等)について職員間で共有し、関わり方の工夫につなげる。また、活動を通してどのような変化や成長がみられるかを振り返りながら、子供にとってより意味のある時間となるよう内容の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境面の制約がある	自施設の建物ではないため、バリアフリー化などの環境整備に制限があり、利用児の状態によっては十分に対応できない場合がある。	現状の環境の中で安全性を確保するための運用の見直しや工夫を行うとともに、必要に応じて代替手段の検討を行う。また、利用者のニーズをふまえた環境調整の優先順位を整理し、可能な範囲で改善を図る。
2	プログラムの体系的が弱い	日々の活動が利用児の状況に応じた柔軟な対応となっている一方で、年間を通じた計画性や支援の成果を客観的に評価する仕組みが十分に整理されていない。	活動内容について年間の枠組みや方向性を整理し、職員間で共有する。また、利用児の変化(参加状況・行動面など)を記録・可視化し、支援の効果を振り返る仕組みを整える。
3	学習支援への対応が限定的	読み書き等の学習支援を希望する声がある一方で、事業所の療育支援方針として、感性や非認知能力の育成からの療育に重点をおいているため、十分に対応できていない。	事業所の支援方針を整理し、学習支援の位置づけを明確にする。その上で、必要に応じて外部資源の情報提供を行うとともに、日常の活動の中で集中力や表現力など基礎的な力の育成につながる支援を強化する。